

今夏の電力需給見通しと 当面の対応について

平成24年3月26日

経済産業省

(1) 今夏の需給見通しについて

○原発の再起動がなく、2010年の夏並みのピーク需要となった場合、約1割(▲9.2%、▲1,656万kW)のピーク不足。

○2011年夏の節電実績を前提とすれば、日本全体で+4.1%(638万kW)の予備率に(電気の使用制限を発動した2011年の夏の節電実績は、東北▲15.8%、東電▲18.0%)。

1. 2010年並の猛暑を想定した最大電力需要の場合(原子力の再起動がなく、各社の供給力に原子力を全く含まない場合) [7/29 エネルギー・環境会議]

	(万kW)	東3社	北海道	東北	東京	中西6社	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	9電力
8月	供給－需要 (予備率)	▲834 (▲10.4%)	▲32 (▲6.4%)	5 (0.3%)	▲807 (▲13.4%)	▲823 (▲8.3%)	41 (1.5%)	▲605 (▲19.3%)	▲9 (▲1.5%)	33 (2.7%)	▲67 (▲11.3%)	▲216 (▲12.3%)	▲1,656 (▲9.2%)
	最大電力需要	7,986	506	1,480	6,000	9,968	2,709	3,138	573	1,201	597	1,750	17,954
	供給力	7,152	474	1,485	5,193	9,145	2,750	2,533	565	1,234	529	1,534	16,297

2. 最大電力需要が2011年夏ピーク実績(電気の使用制限を行い、平年並みの暑さであり、IIP(鉱工業生産指数)が低かった2011年夏)と同程度の場合

	(万kW)	東3社	北海道	東北	東京	中西6社	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	9電力
供給－需要 (予備率)	499 (7.5%)	▲11 (▲2.3%)	239 (19.2%)	271 (5.5%)	137 (1.5%)	230 (9.1%)	▲251 (▲9.0%)	32 (5.9%)	151 (13.9%)	▲15 (▲2.7%)	▲10 (▲0.6%)	636 (4.1%)	
今夏ピーク実績	6,653	485	1,246	4,922	9,008	2,520	2,784	533	1,083	544	1,544	15,661	
供給力	7,152	474	1,485	5,193	9,145	2,750	2,533	565	1,234	529	1,534	16,297	

(2) 今夏のピーク電力不足への対応

「エネルギー需給安定行動計画(平成23年11月1日)」概要

【対応の方針】

- 計画停電や電気の使用制限を回避することを目指す。
- 平成23年度当初予算と補正予算(直接的なピーク時電力対策は2353億円、間接的な対策まで含めると合計5794億円)と規制制度改革(重点26項目)で省エネや電力供給拡大の努力を後押し。

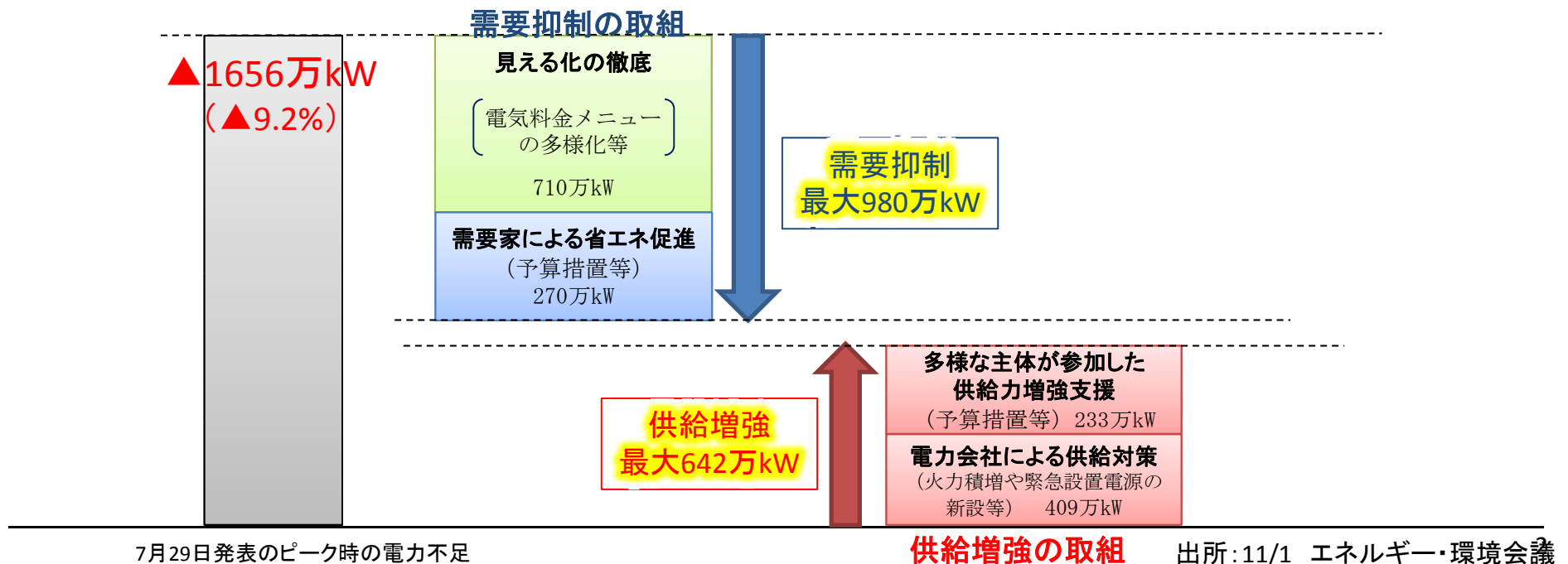
【3本の柱】

- (1)見える化の徹底(節電目標の共有・スマートメーターも活用した電力消費の見える化・節電を促す料金メニューの拡充)
- (2)需要家による省エネ促進(需要構造の改革)
- (3)多様な主体が参加した供給力増強支援(供給構造の改革)

【需給ギャップが広がるリスクと対応】

- 需給ギャップが、①予備率3%の確保の必要性、②気温の変動、③電力会社の供給力脱落、④政策効果の変動幅の大きさなどにより拡大するリスクあり。
- したがって、数値目標を含む、きめ細やかな節電要請や、電力会社による供給力の積み増しを更に追求。

(最終的な節電要請の幅は、今春に需給見通しをレビューの上で決定・公表)



＜参考＞ 今夏の需給見通しについて（電力各社による追加供給対策後）

○原発の再起動がなく、2010年の夏並みのピーク需要となった場合、▲7.0% (▲1,261万kW) のピーク不足。
 ○2011年夏の節電実績を前提とすれば、日本全体で+6.7% (1,042万kW) の予備率 (電気の使用制限を発動した2011年の夏の節電実績は、東北▲15.8%、東電▲18.0%)。他方、揚水汲み上げ電力不足、燃料の輸送制約、長期停止火力の復帰の遅れなどのリスクから、合計560万kWの供給減のおそれあり。

1. 2010年並の猛暑を想定した最大電力需要の場合 (原子力の再起動がなく、各社の供給力に原子力を全く含まない場合)

8月	(万kW)	東3社	北海道	東北	東京	中西6社	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	9電力
	供給－需要 (予備率)	▲356 (▲4.4%)	▲33 (▲6.6%)	▲28 (▲1.9%)	▲294 (▲4.9%)	▲905 (▲9.1%)	7 (0.3%)	▲785 (▲25.0%)	12 (2.0%)	73 (6.1%)	▲49 (▲8.2%)	▲162 (▲9.3%)	▲1,261 (▲7.0%)
最大電力需要	7,996	506	1,490	6,000	9,968	2,709	3,138	573	1,201	597	1,750	17,964	
供給力	7,640	473	1,462	5,706	9,063	2,716	2,353	585	1,274	547	1,588	16,703	

※ 最大電力需要については2010年並みの猛暑を想定。ただし、東北電力管内においては震災からの復興需要を考慮。

注1) 夜間融通等の受電不足に伴う揚水汲み上げ電力不足により、東京▲100万kW、関西▲78万kWの可能性あり。

注2) 燃料調達に係る輸送力等の制約による石油火力及び揚水供給力減 (九州▲337万kW) のおそれあり。

注3) 長期停止火力の復帰の遅れの可能性あり (関西▲45万kW) (合計▲560万kW)

出所: 11/1 エネルギー・環境会議

2. 最大電力需要が2011年夏ピーク実績 (電気の使用制限を行い、平年並みの暑さであり、IIP (鉱工業生産指数) が低かった2011年夏) と同程度の場合

8月	(万kW)	東3社	北海道	東北	東京	中西6社	中部	関西	北陸	中国	四国	九州	9電力
	供給－需要 (予備率)	987 (14.8%)	▲12 (▲2.5%)	216 (17.3%)	784 (15.9%)	55 (0.6%)	196 (7.8%)	▲431 (▲15.5%)	52 (9.7%)	191 (17.6%)	3 (0.6%)	44 (2.8%)	1,042 (6.7%)
最大電力需要	6,653	485	1,246	4,922	9,008	2,520	2,784	533	1,083	544	1,544	15,661	
供給力	7,640	473	1,462	5,706	9,063	2,716	2,353	585	1,274	547	1,588	16,703	

電事法27条に基づく電気の使用制限を発動

数値目標付きの節電効果

注1) 夜間融通等の受電不足に伴う揚水汲み上げ電力不足により、東京▲100万kW、関西▲78万kWの可能性あり。

注2) 燃料調達に係る輸送力等の制約による石油火力及び揚水供給力減 (九州▲337万kW) のおそれあり。

注3) 長期停止火力の復帰の遅れの可能性あり (関西▲45万kW) (合計▲560万kW)

出所: 11/1 「エネルギー・環境会議」の資料をもとに計算³

今夏のピーク電力不足に関する当面の対応について

○政府として、今夏のピーク電力不足への対応のため、「エネルギー需給安定行動計画（平成23年11月1日）」に基づき、電力会社の供給力の最大限の積み上げと、需要抑制の支援策等を通じた、需給ギャップの解消に努めているところ。

○一方、今夏の最終的な需給見通しは、精査中であるものの、関西電力をはじめとし、九州電力、北海道電力等において、相当厳しい見通しとなることが想定される。

○このため、電力会社においては、料金割引となるきめ細かい需給調整契約のメニューを用意し、大口需要家（契約電力500kW以上）の皆様に対し、加入のお願いを開始しつつあるところ。

<参考> 関西電力の需給調整契約の例

- ① 平日13:00-16:00の空調機器の一部停止や自家発電による需要抑制に応じて割引
- ② 生産設備のメンテナンス等を夏期に変更すること等に応じて割引
- ③ 休日の振り替えや新たな休日の設定に応じて割引 等

○大口需要家の皆様におかれても、電力会社からの需給調整契約等に関する提案・相談を踏まえて、対応をご検討頂きたい。